年金法「修正案」十分な議論無しの衆議院採決（５月３０日）に抗議

自公立民３党合意で「基礎年金底上げ」年金額は増えるの？　年金額は増えず、今後も減額が続く

基礎年金の底上げ策は、「改正案」の柱の一つであったが、政府は一時提出を断念。ところが立憲民主が助け舟。３党修正案を国会に提出した。

少子化と長寿化を踏まえ、基礎年金と厚生年金は、それぞれマクロ経済スライドにより給付を減額調整中。財政状況の良い厚生年金の減額は２０２６年度に終わるが、基礎年金は５７年度まで続き実質的に３割減額となる。

そのため「修正案」では、厚生年金の積立金の活用で、減額調整を３６年度で同時に終了。年金受給者全体の給付水準を底上げする。底上げは、まやかしで３割減るのを２割減にとどめる。この案でも１割減となる。実施判断を２９年以降に先送り基礎年金と厚生年金の減額終了を同時にするため、厚生年金の減額を当初予定の２６年度でなく，いったん３０年度まで伸ばすことに成る。

　ただ、厚生年金は実質給付削減が当初より長引き、一時的に受給額が減るケースも生じる。３党合意の修正案は、この影響を何らかの形で緩和すると規定するが、具体策は決まっていない。

　年金法採決強行に抗議し、修正案の撤回を強く求めます。

２０２５年５月３１日

三鷹支部支部長　印南泰成